

Title	学生教育に思うこと
Author(s)	阿部, 伸一
Journal	歯科学報, 111(3): 3i-3i
URL	http://hdl.handle.net/10130/2420
Right	

学生教育に思うこと

阿 部 伸 一

震災でやや混乱があったものの新学期が順調に進み、教育の場に関して言えば少し落ち着きを取り戻している。「学生にとってわかりやすく、必要十分な知識を与え、かつ吸収させることが出来る学生参加型対話形式の講義」この理想型は教員になった20年程前から目指していることである。しかし、教育をする側、受ける側のいくつかの問題が解決されない限りこの課題は達成できないのではないかと考えるようになった。

初めに教授する側の問題を考えてみる。毎年講義・実習の方略を考え、実施後修正して次年度の計画を立てる。昨年度より他講座の講義を見学できるようになった。また、「方略が大切だ」ということで教育学会などでは講義・実習に関する様々な工夫が発表されている。このように他講座、他大学などにおける取り組みを勉強し、それを取り入れるようにしている。しかし、これが度を過ぎると方略のための方略作成に傾き始め、学生にとってはわかりづらくなる可能性がある。教員は学生の方ではなく自己満足や学会など違う方向を向いている状態で、結果として教育効果は上がってこない。例えば、学生の興味を引くために臨床関係を中心とした多くの写真、ムービーなどの contents を集め、それらを利用し作成したパワーポイントも、実際には学生に理解させなければならない項目を完全に吸収させていない事もある。「Too much scheming will be the schemer's downfall.」小学校の頃覚えた諺に「策士策に溺れる」というものがあつた。少し慣れてきて方略に自己満足してはいないか？学生と100%向き合っているか？これらを常に確認しなければならないと考えるようになった。また、教員と学生との信頼関係も重要だと考える。「この先生が話すことを聞きたい。」と心から思ってもらえれば方略なんて小さい問題なのかもしれない。そして「本日教授したいことを明確に教授したか？すべての学生がその内容を吸収したか？」これをきちんと確認するという最もシンプルな事を忘れないようにしたい。

次に教育を受ける側の問題を考えてみる。2学年の主任をさせていただいて感じたことがある。「ほとんどの学生は見かけによる」ということである。決して偏見ではない。前期の成績、出席状況が出た頃にはそれを確信し、遅刻・欠席が目立ち、成績が低迷している数名を呼び出し、華やかな装飾品の禁止、サンダル禁止、男子には無精髭を剃る事、夜寝ることができないという学生には21時からのマラソンを命じ、また教員に対する言葉遣いの指導なども行った。はじめは煙たがられたが少し時間がたつと信頼関係も生まれ、彼らは勉強にもきちんと取り組むようになっていった。大学全体で今年度より、授業開始時の挨拶など、モラルを重要視した取り組みが始まった。「挨拶は気持ちがいいものだ」と学生自身が思っている。毎回の講義においての細やかなチェックをしていきたいと考えている。その次のステップとして、学生にはもっと欲を持ってもらいたいと思う。「もっと知りたい」こんな単純なことが学ぶということである。「登院する前に臨床のことを少しでも多く知っていたい」「基礎学問を通して臨床における生命現象の真理を追求したい」「外国からの留学生とコミュニケーションをとりたい」「もっとうまい製作物を作りたい」このような欲をもつことが目標を達成するためのエネルギーになるということを知って欲しい。「〇〇点とればいい。」「〇日くらい授業に出ればいい。」そのような学生が結果的にハードルをクリアできないでいるようだ。個々の学生のモチベーションがどこにあるのかについて確認し、少しでもいい方向に導いてあげる必要があると考える。

「学生にとってわかりやすく、必要十分な知識を与え、かつ吸収させることが出来る学生参加型対話形式の講義」これを追求するための土壌をしっかりと整えていきたいと考えている。

(東京歯科大学解剖学講座 教授)